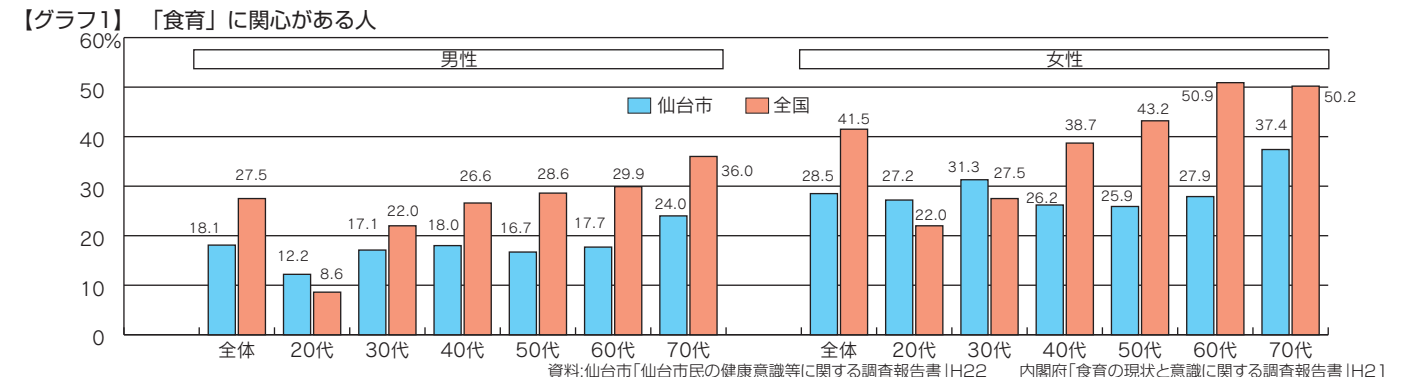


これまでの取り組みから見えてきた課題

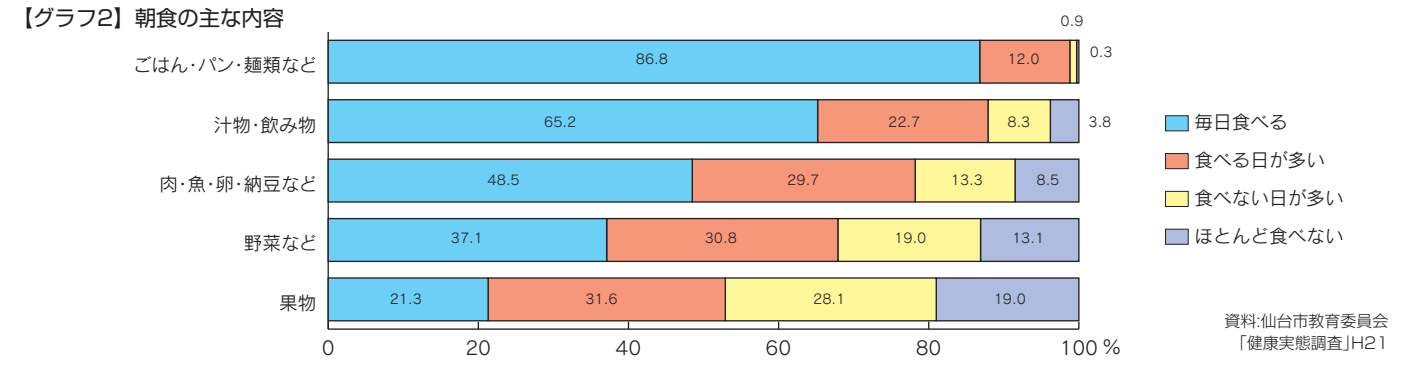
これまでの仙台市の取り組みを評価するなかで、次のような現状が、課題として見えてきました。

- 1** 食の大切さへの関心が薄く、健康的な食生活が習慣化していない
- 2** 郷土食や行事食、食文化伝承の機会が少ない
- 3** 地場産の食材など、地産地消の実践についての情報が不足
- 4** 食品の安全性等について正しい情報が伝わりにくい

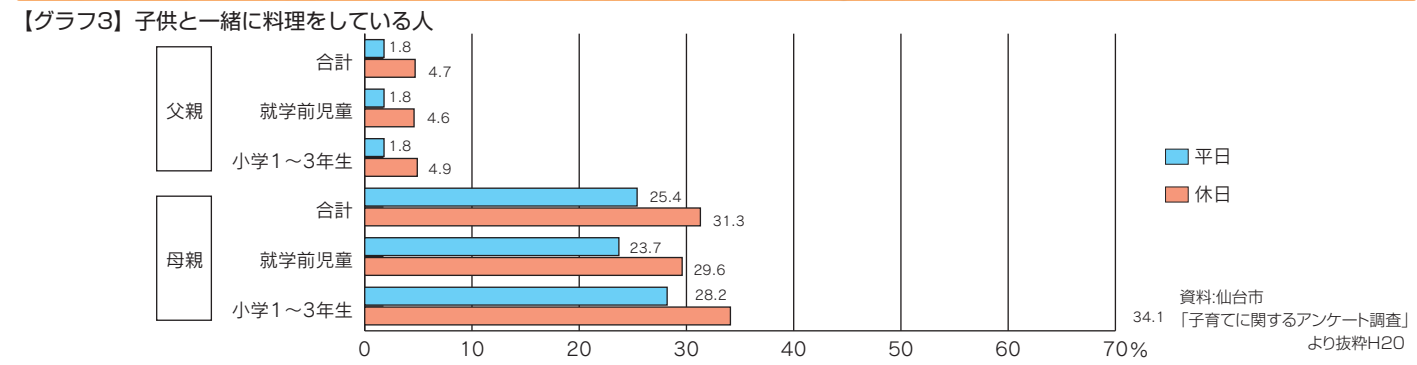
市民の食育への関心度は全国に比べて低く、特に若い世代の関心度が低い傾向です



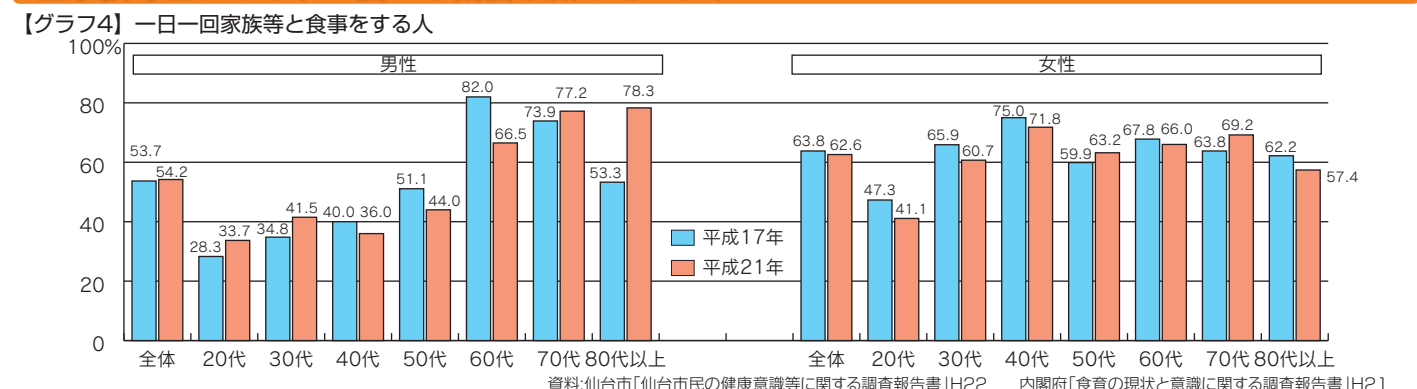
児童・生徒は、朝食を食べていても内容に偏りがあります



献立を考え、食材を確保し、調理、後片付けをする経験が少ない傾向にあります



家族等といっしょに食べる機会が減っています



推進にあたっての指標

指標項目	現況値 (H21)	目標値	
食育に「関心がある」人の割合	23.9%	70%以上	
1日1回は家族や仲間と食事をする人の割合	58.8%	75%以上	
食育サポーター(団体・個人)の登録数	22	増加	
朝食を毎日食べる人の割合	4歳児	(H22)95.4%	100%
	小学5年生	89.8%	100%
	中学2年生	86.2%	100%
	20歳代男性	50.0%	85%以上
	20歳代女性	64.9%	85%以上
	30歳代男性	54.3%	85%以上
適正体重の範囲にある人の割合	30歳代女性	74.1%	85%以上
	児童・生徒の肥満	8.6%	7%以下
	20歳代女性のやせ	21.9%	15%以下
	20～60歳代男性の肥満	29.1%	15%以下
栄養バランスに気をつけている人の割合	40～60歳代女性の肥満	16.4%	15%以下
	栄養バランスに気をつけている人の割合	82.8%	95%以上
	外食栄養成分表示実施店の数	237店舗	増加
	栄養成分表示を参考している人の割合(食品購入時)	27.2%	75%以上
学校給食の地場産物利用品目数の割合	栄養成分表示を参考している人の割合(外食時)	22.5%	60%以上
	学校給食の地場産物利用品目数の割合	30.1%	増加
	学童農園・市民農園の数	114農園	120農園以上
	食品の安全性に関する講習会の受講者数	8,317人	増加

計画の推進体制

推進体制

仙台市食育推進会議を構成する各主体を中心とした関係機関と市の関係部局が、それぞれの特徴を活かし、互いに連携・協力をしながら、積極的に推進します。
また、市はこれらの取り組みを総合調整します。

進捗管理

仙台市食育推進会議において協議を行いながら、年度ごとに進捗状況を把握・評価し、その結果を公表するとともに、事業に反映させます。

仙台市健康福祉局保健衛生部健康増進課
〒980-8671 仙台市青葉区国分町三丁目7番1号
TEL: 022-214-8198 FAX: 022-211-1915
Eメール: fuk005520@city.sendai.jp

仙台市食育推進計画

第2期 概要版

平成23年3月
仙台市

計画策定の経緯と趣旨

我が国の社会経済構造が大きく変化していく中で、ライフスタイルや価値観の多様化に伴い、食生活やそれを取り巻く環境が激変し、その結果、食習慣の乱れ、栄養の偏り、更には生活習慣病の有病者の増加・重症化など、食をめぐる現状は危機的な状況にあるといわれています。

この状況の解決を図るため、平成17年6月に、「食育」を推進することを目的として「食育基本法」が制定されたことを踏まえ、本市では、平成19年3月に「仙台市食育推進計画」を策定し、市民、関係団体、事業者、仙台市が連携しながら食育推進に取り組んできました。

当初計画が平成22年度で計画期間を終えることから、計画の評価と課題の把握を行い、これからの社会情勢や環境の変化を踏まえて、今後10年間における推進の目標と方向性を明確にするため、仙台市食育推進計画〔第2期〕を策定しました。

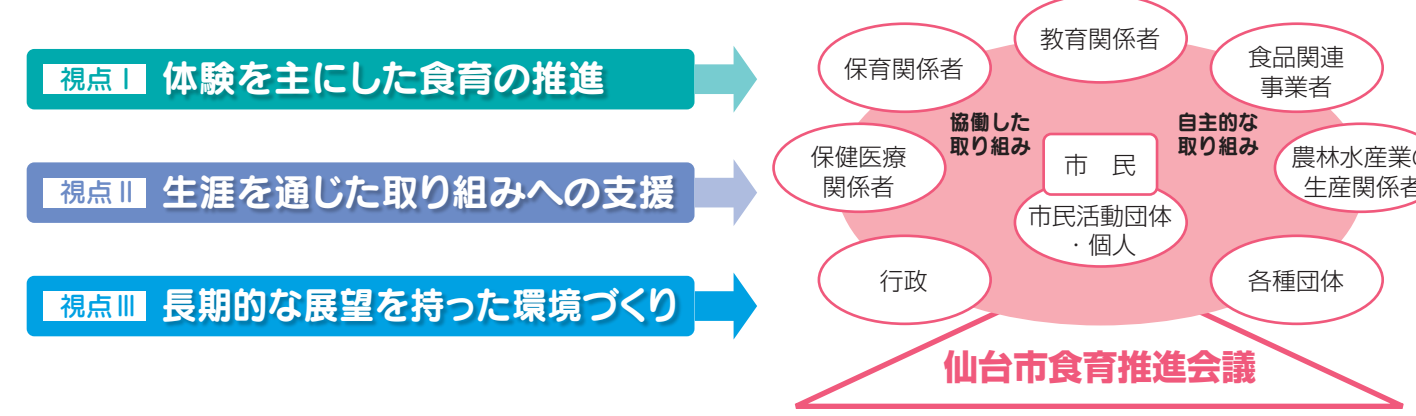
計画期間 平成23年度から平成32年度までの10カ年を計画期間とし、中間年(平成27年度)に中間評価と計画の見直しを行います。

食育とは… 「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの」であり「様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる」(食育基本法前文) こととされています。

推進の基本

推進の視点と主体

食育の推進は、市民一人ひとりが食の大切さを知り、自ら取り組むことが基本であり、家庭は食育を実践する基本の場です。しかし、食を取り巻く社会状況の変化、食に対する関心の低下、体験不足、食卓でのコミュニケーションの機会の減少などから、家庭のみではその機能を果たすことが難しくなっています。そこで、市民と共に、地域・学校・職場などの暮らしの場で、食に関わる様々な関係機関が協働し、3つの視点で食育を推進していきます。また、仙台市食育推進会議※は、市民と関係機関をつなぎ、お互いの活動の場を広げ支える役割を担っています。



食育の4つの分野

- 食習慣と健康** 規則正しい食事、栄養バランスや食事量への配慮など
- 食の由来・文化** 食事のマナー、感謝の心、地域の行事食や郷土料理の体験など
- 生産・流通・消費** 地域の食材の活用、農業体験、生産者と消費者の交流など
- 食の安全性と食品に対する信頼性確保** 食品の表示、衛生的な取扱い、食品の安全性についての情報など